

第三者評価結果報告書

総括	
対象事業所名	アスク和田町保育園
経営主体(法人等)	株式会社 日本保育サービス
対象サービス	保育所
事業所住所	横浜市保土ヶ谷区和田1-13-1朋和ビル1F
設立年月日	平成19年4月1日
評価実施期間	平成24年6月～平成24年10月
公表年月	平成24年11月
評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部
評価項目	横浜市評価基準
総合評価（優れている点、独自に取り組んでいる点、改善すべき事項等）	
<p>【施設の特徴】</p> <p>1. 立地上の特徴 相鉄線和田町駅から商店街を抜けて5分のところに位置し、ビルの1階ワンフロアを占め園庭が付属している。夏は大小3、4個の簡易プールを設置して、地域の子どもにも開放している。近くには様々な公園があり、子どもたちの散歩に利用している。</p> <p>2. 多彩なプログラムの提供 専任講師による英語教室、リトミック、体操教室があり、言葉・歌・身体を使って表現することで、子どもたちは他の文化に触れたり、リズム感や運動能力を養ったりしている。</p> <p>【特に優れていると思われる点】</p> <p>1. 子ども一人一人に添った保育 入園前の面接時、子どもの成育歴・環境情報などを園長、主任、リーダー保育士により、入念にヒアリングして記録をとり、面接した職員が担任にならない場合は口頭で担任に詳しく送りしている。 進級時には送り事項を記録し、担任が持ち上がりできない場合は、数日かけて送りを行っている。 小学校へ提出する保育所保育要録は、全員の子どもについて直接小学校に持参し、口頭で送りを行っている。 配慮を要する子どもについては、目標設定、評価反省を含めた毎日の記録を丁寧に取り、職員会議やミーティングで話し合っている。関係機関との連携は主として園長が担当し、複数の関係機関とケース会議を開いている。ほかの子どもたちも仲間として普通に接し、できないところは自然に手伝うなど、違和感なく過ごしている。 日々の保育でもそれぞれの子どもの意思を尊重し、一斉活動も無理強いしないようにしている。</p> <p>2. 保護者と情報を共有 保護者と保育方針を始め様々な情報を共有できるように工夫している。例えば、玄関に貼ってある園目標は、職員と保護者で手作りしたものである。廊下に貼ってある散歩マップには、</p>	

散歩の目的、意義が記入してあり、保護者にもわかるようになっている。玄関には、その日の早番遅番の職員を「おはようの先生」「さよならの先生」として名前を掲示している。園だよりには2か月分の行事予定、アンケートの結果などを載せている。

その結果、保護者アンケートでも特に「保護者との面談の機会」「園の様子や行事に対する情報開示」の項目で100%の満足度を得ている。

3. 地域の子育て支援

毎月第一土曜日の地域の子育て支援活動「すくすく」を続けている。毎月10組の親子を対象にしており、予約ですぐに埋まってしまふほどの人気である。その月の担当職員2人で内容を企画し、他の職員の助けを借りて実行している。身長・体重測定、水遊び、七夕、親子クッキングなどの企画がある。

【特に改善や工夫などを期待したい点】

1. 園運営の中長期的展望

園長・主任のもとに職員がまとまって園運営が軌道にのっています。さらによりよい園を目指して、現在の園の課題を抽出し、中長期的な展望のもとに園運営の方向性を示し、その実現に向けての短期計画を積み重ねていくことが望まれます。

評価領域ごとの特記事項

1.人権の尊重

- ・保育の理念を「子どもの『自ら伸びようとする力』『後伸びする力』を育てる保育を」「子どもの感受性や好奇心を育てる心を自然な形で伸ばす『五感で感じる保育』の充実を」とし、運営方針を「安全・安心を第一に」「いつまでも思い出に残る施設であること」「利用者に本当に求められる施設であること」「職員が楽しく働けること」とし、園目標を「元気に育て 心と体」として、子ども本人を尊重したものとなっている。
- ・サービスの実施内容は、子ども一人一人を見ながら、一斉保育の時も決して無理強いをさせないようにしており、子どもを尊重したものになっている。
- ・食事の際には嫌いな野菜を食べたことをほめたり、衣服の着脱はゆったりと見守ってできないところだけを手伝うなど、職員は子どものペースを尊重し、せかしたり強要したりしていない。発達に応じたわかりやすい言葉で、子どもとおだやかに話をしている。
- ・子どもに対して体罰などを与えるのではなく、なぜやってはいけないのか、年齢相応にやさしく説明し、本人が納得して改めるようにすべきと、全職員が認識している。
- ・個人情報施錠できる場所に保管・管理され、守秘義務の意義や目的を全職員に周知している。
- ・家庭支援の必要な保護者には、担任だけでなく園長も一緒に面談したり、頻繁に声をかけるようにして虐待の予防に配慮している。
- ・遊びや行事での役割、名前シールなどで性別による区別はしていない。呼び名も全員「さん」で通している。

2.意向の尊重と自立生活への支援に向けたサービス提供

- ・おもちゃや教材などを子どもたちの意見を聞いて提供している。大きくなるに従って、絵本やおもちゃ、ハサミや筆記用具は自由に取り出せるようにしている。牛乳パックなどの廃材も用意している。手作りおもちゃや、手作りのキッチンセットやスカートがかかったダンスもある。
- ・ほとんど毎日散歩や園庭での屋外活動をしている。4、5歳児は散歩時に一人一人水筒を持参してもらっている。子どもたちの希望で雨が降っていても散歩に出かけられるよう全員の雨合羽を用意している。

	<ul style="list-style-type: none"> ・一斉活動は一緒に遊ぶ楽しさとともにルールを守ることを教えながら取り入れているが、無理にさせることはしないようにしている。 ・ゴーヤを栽培して、ゴーヤはウリ科で仲間には「メロン（瓜）、スイカ（西瓜）、キュウリ（胡瓜）、ヘチマ（糸瓜）」があると絵に描いたものを貼って子どもたちが興味を持つようにしている。 ・毎月その月の歌を決め、朝の会や誕生会にみんなで歌っていると子どもたちは覚えて口ずさんだり、好きな歌を歌ったりしている。 ・朝夕の合同保育のほか、2～5歳児を縦割り3チームに分けて、プール・お店屋さんごっこ・自由遊びを選ばせて、食事と一緒にとる異年齢児保育をしている。夕方には、5歳児が自発的に0歳児の保育室を訪問して、抱っこしたり遊んであげたりしている。 ・廊下に絵本コーナーを設けて、自由に借りられて自宅で読めるようにしている。 ・授乳時のミルクの量は保護者と定期的に話し合っ決めて、抱っこして目を合わせ、声をかけながら与えるようにしている。冷凍母乳や持参のミルクを飲む子どももいる。 ・離乳食も子どもの様子を見ながら食べさせ、中期食・後期食かを職員が必ず声を出して確認している。 ・子どもが食事をしているところに栄養士が入ってきて、食材の話や食べ方のルールなど、楽しくしゃべりながら教えている。 ・園での排泄状況を保護者に伝え、トイレトレーニングについて保護者と話し合いながら進めている。上手にできた時は、保護者にも知らせるようになっている。
<p>3.サービスマネジメントシステムの確立</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保育課程は、理念、基本方針、園目標を基に、家庭や地域の環境を考慮し、長時間保育や地域との関わりを取り入れて、職員会議で話し合っ作成している。 ・保育課程に基づき、年齢ごとに年間指導計画、月間指導計画、週案を作成し、0～2歳児全員と特に配慮を要する子どもには個別指導計画を作成している。評価改定は複数のクラス担任で話し合い、発達や状況に応じて随時計画を見直している。改訂した部分は、わかりやすいように赤ペンで記入している。 ・子どもがやってみたくてと言った活動を重視して計画を変更するなど、計画には柔軟性を持たせている。 ・配慮を要する子どもを積極的に受け入れ、ケース記録には、毎日の評価・反省・達成度を記録している。設置法人の心理アドバイザーや療育センターのソーシャルワーカーの巡回相談で保育へのアドバイスを受けている。 ・子どもたちが障がい児を特別視しないだけでなく、自然に手助けするような雰囲気を作っている。 ・アレルギーがある子ども専用のファイルをもとに、出欠確認時にアレルギー食の数を給食室に連絡し、配膳時には、担任と給食室の職員、クラスでは2名の職員で声掛け確認をしている。また、アレルギーがある子どものトレーは、色を変えている。 ・保護者からの要望や苦情は、設置法人や区役所の窓口、第三者委員の電話番号を玄関に貼り、設置法人の代表に直接メールできるなど保護者が苦情を直接申し立てやすいようにしている。 ・廊下に置いてある意見箱には、「パパのつぶやき、ママのつぶやき…等たくさんのご意見を」と書いて、入れやすいように工夫しているほか、職員は送迎時やクラス懇談会では保護者の声に耳を傾けるようにしている。 ・ケガは小さなものでも担任が残っ必ず保護者に報告して、ヒヤリハッ

	<p>ト記録に詳細に記載している。ミーティングで報告し、再発防止策・改善策を検討している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の健康診断・歯科健診や、身長・体重などの検査記録がある。健診結果は、配慮すべき点も記入して、保護者に伝えている。歯科健診の結果と共に、治療の必要な子どもには治療後に医師の印を押してもらう受診終了届も渡している。 ・門のインターホンにはカメラが付いており、電子錠をしている。保護者は防犯プレートを着用している。 ・不審者に対して警察や民間警備会社に異常通報するシステムがある。
<p>4.地域との交流・連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月第一土曜日の子育て支援事業「すくすく」では、毎月の担当者を中心にメニューを考え、地域の子どもに保育室や園庭を開放している。そこで子育てに関する相談も受けている。特に夏は園庭での水遊びが人気である。 ・保土ヶ谷区の子育て支援事業「親子の広場」に参加し、遊びの指導や相談をしながら地域住民と交流している。 ・夏祭りなど園の行事に町内会役員、民生・児童委員、卒業生父兄など地域住民を招待している。 ・近隣から玩具やオムツの寄付を受けたり、和田町商店街の夏祭りへの参加やべっぴんマーケット商店会のイベントへの参加などを通して、町内会や地域団体と交流し友好関係を築いている。 ・近くの星川小学校の校庭を借りて運動会を毎年行っており、「園だより」を園児と共に届けて交流し、学校教育との連携を図っている。 ・公園に花を植える「愛護会」の活動に参加したり、朝夕、園周りの清掃をしたりして近隣との友好関係を築くための一助としている。
<p>5.運営上の透明性の確保と継続性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・組織や職員が守るべき法規・倫理などについては就業規則や保育業務マニュアルの中で明記され、設置法人内にコンプライアンス委員会を設けており、委員名や電話番号が職員の目に付くところに掲示してある。 ・設置法人のホームページで経営状況や運営状況などに関する情報が公開されている。 ・ゴミ減量化やリサイクル、省エネルギーに取り組んでおり、裏紙の利用、エコキャップ集め、廃材利用の遊具制作、地域の子ども会による廃品回収への協力、節電の徹底などを行っているが、環境への園の方針の明文化がされていません。 ・園長は人事異動や与薬問題、費用値上げなどの重要な意思決定・変更の際し、園だよりや運営委員会で保護者や職員に目的・理由・経過を十分に説明している。 ・主任は全職員のシフトを調整する業務の中で、個々の職員の能力を把握し、肉体的・精神的に健全な姿で業務に就けるよう必要な助言と指導を行っており、職員からの信頼度が高い。 ・安定した施設運営を可能にするため、3～5年にわたる中長期計画の策定が望まれます。
<p>6.職員の資質向上の促進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・園長は適正な人材構成を検討し、必要な人材を育成して、不足職員の補充を図っている。 ・「保育士人材育成ビジョン」という基準が設置法人にあり、各人の経験や知識に応じた役割が明記されている。それに基づき、職員は年間研修計画のなかで「自己成長計画」を策定して、半期に一度、達成度を自己評価し、園長面接の上、成長計画を見直している。 ・設置法人では、地域エリア毎に「園児年齢別研修」を年間を通じて行い職

員間の意識向上を図っている。

- ・職員と非常勤職員の業務配置・組み合わせは、主任が各人の経験、適性、性格などを配慮して行っている。

- ・他園研修に行く機会を多くしたり、意識的に担当クラス以外のクラスで保育をしたりすることで、職員一人一人が自己を振り返り、そのクラスの保育についても振り返ることができるようにしている。

- ・各クラスの指導計画の週案・月案に「振り返り反省する」欄があり、子どもの生活環境や生育歴を重視しながら、保育実践を振り返っている。

- ・園の行事終了後、全職員で反省会を開き、園全体としての課題に取り組んでいる。

- ・職員は業務改善提案や意見具申を自由な形式で園長に提案している。園長は提案し易いように、文書でなくても、口頭でも良いとしている。


- ・園長は職員との面接を随時行うことにより、職員の満足度や要望を正しく把握できるようにしている。園長は私的に面接記録をつけ、職員のやりがいや満足度を高めるのに利用している。また、非常勤職員とも面接してコミュニケーションを図ると共に、非常勤職員も一職員として自覚と責任を持つよう指導している。

評価機関による評価



3つ：高い水準にある、2つ：一定の水準にある、1つ：改善すべき点がある

評価領域 I 利用者本人（子ども本人）の尊重

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>I-1 保育方針の共通理解と保育計画等の作成</p> 	<p>保育の理念を「子どもの『自ら伸びようとする力』『後伸びする力』を育てる保育を」「子どもの感受性や好奇心を育てる心を自然な形で伸ばす『五感で感じる保育』の充実を」とし、運営方針を「安全・安心を第一に」「いつまでも思い出に残る施設であること」「利用者になんか求められる施設であること」「職員が楽しく働けること」とし、園目標を「元気に育て 心と体」として、子ども本人を尊重したものとなっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員は入社時には基本理念の説明を受け、年度初めの職員会議でも確認している。園が第三者評価を受けるにあたって、園長は全職員が園の方針を理解していることを再確認した。 ・日々の保育は、理念や基本方針を念頭に入れて実施している。 ・保育課程は、職員会議で話し合っ決めていく。 ・子どもがやってみたくて言った活動を重視して計画を変更するなど、柔軟性を持たせている。雨の日でも散歩をしたいと言えばできるように、全員の雨合羽を揃えている。 <p><工夫している事項></p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育理念は玄関の目につくところに掲示し、保護者と一緒に作った園目標の掲示を廊下に掲げ、散歩マップには、「思いやりを持つ」「我慢する力を育てる」など散歩の目的を記載している。
<p>I-2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・入園前に子どもも一緒に来園し、園長・主任・リーダー保育士による面接をし、子どもの遊んでいる様子も観察シートに記入している。 ・入園までの生育歴や家庭での状況は個人ファイルに綴じて、職員は見ることができ、保育に活かしている。面接時の職員が担任でない場合は、その後口頭でも担任に詳しく送りしている。 ・ならし保育は、時間・形態・期間など保護者の希望に応じて行っている。 ・3月の最後の週は移行期間として保育室を移動して慣れるようにし、担任の一人は持ち上がるようにしている。新入園児とはゲームなどをして仲良くなれるようにしている。 ・年齢ごとに年間指導計画、月間指導計画、週案を作成し、年間指導計画は3ヵ月ごと、月間指導計画、週案はその都度評価見直しているが、発達や状況に応じて随時計画を見直している。評価改定は複数の職員で話し合っている。 ・トイレとレーニング、箸への移行、離乳食など、個々のペースの配慮が必要な項目に関しては、保護者と相談しながら計画を進めている。 <p><工夫している事項></p> <ul style="list-style-type: none"> ・改訂した部分は、わかりやすいように赤ペンで記入している。

I-3 快適な施設環境の確保



・マニュアルを基に、保育室、トイレなど共用部分、屋外など担当を決めて毎日行っている。汚れた時は、その都度清掃している。玩具、床、壁の消毒は、特に0歳児は1日2回行っている。

・扇風機・空気清浄器を設置している。1、2歳児のおむつ替えは24時間換気設備のあるトイレで行い、0歳児の場合は、臭いが気になる時は窓を開けている。

・トイレに沐浴設備と温水シャワーがあり、プールの後、汗をかいた時、おもらしをした時などは幼児も使っている。0歳児は安全性を考えて、ベビーバスを使用している。

・朝夕の合同保育では、同じ保育室で一緒に遊んでいる。午睡後の自由時間には、4、5歳児が0歳児の保育室に来て遊んであげている。

<工夫している事項>

・全職員がルームシューズを履き、0歳児の保育室に入る時には脱ぐようにして、雑菌の侵入を防ぐように気を付けている。

I-4 一人一人の子どもに個別に対応する努力



・0～2歳児については、個別指導計画を作成している。

・3歳児以上でも、配慮が必要な子どもには、個別指導計画を立て、ケース記録をとっている。

・目標・計画は月1回見直すだけでなく、状況に合わせて柔軟に変更・見直しをしている。

・保育所保育要録は、全員の子どもの分を直接小学校に持参し、口頭での申し送りを個別に行った。

・子どもの個別の状況・要望は決められた書式に記録し、個人ファイルに綴じて、必要な時はいつでも見ることができるようにしている。

・入園後の子どもの成長発達記録は児童票に記録している。

・進級時の申し送り事項は記録し、数日かけて口頭で伝達している。

I-5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み



・配慮を要する子どもを積極的に受け入れ、設置法人の心理アドバイザーや療育センターのソーシャルワーカーの巡回相談で保育へのアドバイスを受けている。

・障がい児保育や保護者の思いを全職員で学習し、話し合っている。

・子どもたちが障がい児を特別視しないだけでなく、自然に手助けするような雰囲気を作っている。

・家庭支援の必要な保護者には、担任だけでなく園長も一緒に面談したり、頻繁に声をかけるようにして虐待の予防に配慮している。


・アレルギーがある子ども専用のファイルをもとに、出欠確認時にアレルギー食の数を給食室に連絡し、配膳時には、担任と給食室の職員、クラスでは2名の職員で声掛け確認をしている。また、アレルギーがある子どものトレーは、色を変えている。

・職員は、それぞれの国の文化や生活習慣、考え方の違いを尊重している。以前、宗教上食べられないものの代替食を提供していた時は、アレルギー食同様個人ファイルを使用してチェックしていた。ほかの子どもたちにも、宗教上食べてはいけないことを説明している。


<工夫している事項>

・障がい児や配慮を要する子どものケース記録には、毎日の評価・反省・達成度を記録している。

・クッキング保育時に、アレルギーがある子どもに職員が1名つくようにしている。

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>I - 6 苦情解決体制</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の民生委員に第三者委員をお願いして、氏名電話番号を玄関に貼り、また園の行事に招待して保護者が苦情を直接申し立てやすいようにしている。 ・クラス懇談会では保護者の意見を進んで聞き、運営委員会や行事終了後にはアンケートをとって、要望や苦情を聞いている。 ・保護者から設置法人の代表に直接メールできるようになっている。 ・要望や苦情の解決策を職員会議やリーダー会議で話し合い、職員に周知されている。 ・苦情・トラブルはクレーム受理票に記載し、解決に活かしている。 <p><工夫している事項></p> <ul style="list-style-type: none"> ・廊下に意見箱を置いているが、意見箱とは書かずに「パパのつぶやき、ママのつぶやき…等たくさんのご意見を」と書いて、入れやすいように工夫している。

評価領域Ⅱ サービスの実施内容

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>Ⅱ - 1 保育内容〔遊び〕</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・おもちゃや教材などを子どもたちの意見を聞いて提供している。大きくなるに従って、絵本やおもちゃ、ハサミや筆記用具は自由に取り出せるようにしている。牛乳パックやセロファン、ペットボトルなどの廃材も用意している。手作りおもちゃや、手作りのキッチンセットやスカートがかかったダンスもある。 ・ほとんど毎日散歩や園庭での屋外活動をしている。4、5歳児は散歩時に一人一人水筒を持参してもらっている。 ・一斉活動は一緒に遊ぶ楽しさとともにルールを守ることを教えながら取り入れているが、無理にさせることはしないようにしている。 ・ハロウィンでは商店街をまわったり、地域の祭りの法被を着ておみこしをかついだりさせてもらっている。 ・ゴーヤを栽培して、ゴーヤはウリ科で仲間には「メロン（瓜）、スイカ（西瓜）、キュウリ（胡瓜）、ヘチマ（糸瓜）」があると絵に描いたものを貼っている。 ・毎月その月の歌を決め、朝の会や誕生会にみんなで歌っていると子どもたちは覚えて口ずさんだり、好きな歌を歌ったりしている。 ・朝夕の合同保育のほか、2～5歳児を縦割り3チームに分けて、プール・お店屋さんごっこ・自由遊びを選ばせて、食事も一緒にとる異年齢児保育をしている。 ・夕方には、5歳児が自発的に0歳児の保育室を訪問して、抱っこしたり遊んであげたりしている。 <p><工夫している事項></p> <ul style="list-style-type: none"> ・廊下に絵本コーナーを設けて、自由に借りられて自宅で読めるようにしている。 ・子どもたちの希望で雨が降っていても散歩に出かけられるよう全員の雨合羽を用意している。

Ⅱ－1 保育内容[生活]



- ・少食、偏食の子どもには提供する量を減らして完食できるようにして、食べるのが遅い子どもには丁寧に言い聞かせて、強制したりや叱ったりすることはない。
- ・授乳時のミルクの量は保護者と定期的に話し合って決め、抱っこして目を合わせ、声をかけながら与えるようにしている。冷凍母乳や持参のミルクを飲む子どももいる。離乳食も子どもの様子を見ながら食べさせ、中期食・後期食かを職員が必ず声を出して確認している。
- ・職員が子どもの好き嫌いを把握して盛り付けを工夫したり、月1回の給食会議や残食のコメントをする用紙、検食日誌の意見欄などで、食材の切り方・大きさ・硬さなどを調理に反映させている。
- ・子どもが食事をしているところに栄養士が入ってきて、食材の話や食べ方のルールなど、楽しくしゃべりながら教えている。
- ・旬の食材や1食ごとのカロリー、使用食材などが記載された毎月の献立表は、事前に配付している。アレルギーのある子どもには、除去をした献立表を各自配付している。
- ・給食試食会を行い、事前に「食に関してアンケート」をとったものをリーフレットにして配付し栄養士が説明し、質疑応答も行った。
- ・睡眠チェックは0歳児は5分毎、1歳児は10分毎に行い、保育日誌に記録している。
- ・園での排泄状況を保護者に伝え、トイレトレーニングについて保護者と話し合いながら進めている。上手にできた時は、保護者にも知らせてほめるようにしている。

Ⅱ－2 健康管理・衛生管理・安全管理[健康管理]



- ・子どもの健康管理に関するマニュアルがあり、入園時には健康台帳に記入してもらっている。
- ・既往症については変化があるたびミーティングで報告し、全職員が周知している。
- ・食後の歯磨き指導は1歳半ばからしており、歯科医師による赤染めや歯磨き指導をしている。歯科健診の結果と共に、治療の必要な子どもには治療後に医師の印を押してもらう受診終了届も渡している。
- ・一人一人の健康診断・歯科健診や、身長・体重・視力・聴力の検査記録がある。健診結果は、配慮すべき点も記入して、保護者に伝えている。
- ・保育中に感染症を発症した時は、保護者への連絡を速やかにし、すぐに迎えに来られない場合や、家族に感染症が発生した場合も、別の部屋で寝かせたり保育をしたりしている。
- ・感染症が発生した場合は、速やかに掲示板に掲示している。各機関より情報提供された最新情報は、職員が共有すると共に、保護者にも提供している。

II-2 健康管理・衛生管理・安全管理 [衛生管理]





- ・衛生管理に関するマニュアルがあり、マニュアルに基づき、決まった時間に清掃が行われ、チェック表につけ、清潔な状態が保たれている。
- ・マニュアルの内容は、採用時には新人研修で、その後は先輩職員が指導し、職員会議やミーティングの時に全員で読み合わせをしている。職員控え室にはマニュアルを置いて、休憩のときに見られるようにしている。
- ・健康管理マニュアルがあり、健診結果を個人別記録として保管し、一人ひとりの健康状況を把握している。
- ・年2回の健康診断や年1回の歯科健診時には保護者から前もって「聞きたい情報」を伺い、担当医に伝えて適切な回答を得ている。
- ・感染症が発生したときは保土ヶ谷区役所など行政の指示に基づき情報を園内に掲示したり、嘱託医と相談して最新情報を保護者に提供している。


II-2 健康管理・衛生管理・安全管理 [安全管理]



- ・備品などの転倒防止にL字金具やストッパーを付けたり窓ガラスに飛散防止フィルムを貼るなどの安全対策を講じている。
 - ・マニュアルは全職員に周知され、安全委員を設けて朝は園の内外を点検している。
 - ・緊急連絡体制が確立している。保護者への連絡手段としてまちcomiメール(メール連絡網)を設定した。
 - ・月1回の避難訓練、年2回不審者対応の避難訓練をしている。
 - ・職員のほとんどが救命救急法の研修を消防署より受けている。
 - ・ケガは小さなものでも担任が残って必ず保護者に報告して、ヒヤリハット記録に詳細に記載している。ミーティングで報告し、再発防止策・改善策を検討している。
 - ・門のインターホンにはカメラが付いており、電子錠をしている。保護者は防犯プレートを着用している。
 - ・不審者に対して警察や民間警備会社に異常通報するシステムがある。
 - ・保土ヶ谷区子ども支援課や近隣の小中学校から不審者情報を得ることができる。
- <工夫している事項>
- ・散歩には、携帯電話と警備会社の携帯端末を持っている。

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>Ⅱ－３ 人権の尊重</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもに対して体罰などを与えるのではなく、なぜやっ てはいけないのか、年齢相応にやさしく説明し、本人が納 得して改めるようにすべきと、全職員が認識している。 ・個人情報施錠できる場所に保管・管理され、守秘義務 の意義や目的を全職員に周知している。 ・遊びや行事での役割、名前シールなどで性別による区別 はしていない。呼び名も全員「さん」で通している。 ・職員はせかしたり強要したりせず、発達に応じたわかり 易い言葉で、子どもと話をしている。
<p>Ⅱ－４ 保護者との交流・連携</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・行事や運営委員会の後には保護者にアンケートをとっ て、結果は園だよりに掲載している。 ・送迎時には、口頭、連絡帳、クラスノートで、その日の 子どもの様子を保護者に伝えている。担任が伝えられない ときは、伝達ノートを見て他の職員が伝えている。 ・個人面談は年2回実施し、日時は保護者の希望を入れて 決めている。 ・クラス懇談会を年5回実施してクラスの様子を伝えると 共に、保護者の意見を聞き、行事の手伝いをしてもらう中 で保護者の意向に耳を傾けるようにしている。 ・玄関の受付には、園長か主任が必ずいて、送迎時には保 護者に声をかけている。 ・保育参観は年2回設定して、その日の保育内容や見るポ イントを掲示している。その日以外でも、いつでも自由に 参観できることを伝えている。低年齢児の場合は、気が散 らないように窓から見ってもらうようにしている。 ・謝恩会や、保護者のグループが園の行事で発表する劇の 練習に、保育室を提供している。謝恩会には職員も招待さ れ、その中では卒園生全員の写真をスクリーンに映すのを 一緒に鑑賞した。 <p><工夫している事項></p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者に園目標を意識してもらうために、保護者と一緒 に掲示用の園目標を作成した。 ・玄関にその日の朝番遅番の先生の写真と名前を「おはよ うの先生」「さよならの先生」と書いて掲示している。 <p><コメント・提言></p> <ul style="list-style-type: none"> ・行事やイベントのときだけでなく、継続的な保護者組織 ができることを期待します。

評価領域Ⅲ 地域支援機能




評価分類	評価の理由（コメント）
<p>Ⅲ－１ 地域のニーズに応じた子育て支 援サービスの提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月第一土曜日の子育て支援事業「すくすく」では、 毎月の担当者を中心にメニューを考え、地域の子どもに保 育室や園庭を開放している。そこで子育てに関する相談も 受けている。特に夏は園庭での水遊びが人気である。 ・保土ヶ谷区の子育て支援事業「親子の広場」に参加し、 遊びの指導や相談をしながら地域住民と交流している。 ・保土ヶ谷区子ども家庭支援課、子育て支援拠点「こっこ ろ」、他の保育園、幼稚園、保健師などが参加する「子育 て支援連絡会」に参加して、地域の子育て支援ニーズの検 討をしている。

Ⅲ－２ 保育園の専門性を活かした相談機能






- ・「すくすく」や子育て支援事業「親子の広場」の中で、子育て情報の提供や育児相談をしている。
- ・保育所からのお知らせを小学校に届けている。「すくすく」のお知らせを、「親子の広場」に掲示したり、子育て支援拠点「こっころ」に提供したりしている。
- ・保土ヶ谷区こども家庭支援課や横浜中央児童相談所、西部地域療育センターなどをリストにして事務室に掲示し、相談内容に応じて連携できるようになっている。

評価領域Ⅳ 開かれた運営

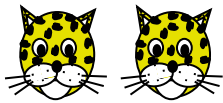

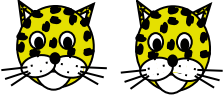
評価分類	評価の理由（コメント）
<p>Ⅳ－１ 保育園の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏祭りなど園の行事に町内会役員、民生・児童委員、卒業生父兄など地域住民を招待している。 ・近隣から玩具やオムツの寄付を受けたり、和田町商店街の夏祭りへの参加やべっぴんマーケット商店会のイベントへの参加などを通して、町内会や地域団体と交流し友好関係を築いている。 ・近くの星川小学校の校庭を借りて運動会を毎年行っており、「園だより」を園児と共に届けて交流し、学校教育との連携を図っている。 ・地域の文化施設、保土ヶ谷図書館を定期的に利用し本の貸し出しをうけている。 ・月一回、育児支援の会「すくすく」を催し、同時に地域の方へ施設を開放している。 ・公園に花を植える「愛護会」の活動に参加したり、朝夕、園周りの清掃をして近隣との友好関係を築くための一助としている。
<p>Ⅳ－２ サービス内容等に関する情報提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・設置法人のホームページや地域団体の機関誌「幼稚園ガイド(保育所版)」などに日々の保育情報を、随時、写真入りで提供している。 ・園の運営基本方針やサービス内容についての問い合わせには、園長が常時対応している。園長不在の時は主任がその任にあたり、不明なことがあれば後日きちんと対応している。 ・希望者は見学ができることを、門外の掲示板で案内している。 ・園の見学者や「すくすく」の参加者には運営理念や保育内容、入所定員、料金などを記したパンフレット（入園のご案内）を渡している。
<p>Ⅳ－３ 実習・ボランティアの受け入れ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアや実習生の受け入れマニュアルがあり、あらかじめ基本的な考え方や受け入れ方針を職員や保護者に説明している。 ・受け入れ担当者として、ボランティアについては園長が、実習生については主任がその任に当たっている。 ・実習生受け入れに際して、学校側と協議し、効果的実習が行われるようプログラムを工夫している。 ・実習終了後、職員と実習生で意見交換を行い、その成果を保育に活かしている。

評価領域 V 人材育成・援助技術の向上

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>V-1 職員の人材育成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・園長は適正な人材構成を検討し、必要な人材を育成して、不足職員の補充を図っている。 ・職員は園の運営基本方針にもとづき、年間研修計画のなかで「自己成長計画」を策定して、半期に一度、達成度を自己評価し、園長面接の上、研修計画を見直すという全社ベースでの人材育成計画が策定されている。 ・設置法人では、地域エリア毎に「園児年齢別研修」を年間を通じて行い職員間の意識向上を図っている。 ・研修報告はレポートでの報告や職員会議の中で行われ全職員が情報を共有すると共に、クラス運営に反映させている。 ・職員と非常勤職員の業務配置・組み合わせは、主任が各人の経験、適性、性格などを配慮して行っている。 ・職員会議やリーダー会議の内容については、非常勤職員にも伝え、情報共有と資質向上のためサインをもらっている。 ・園長は非常勤職員とも面接してコミュニケーションを図ると共に、非常勤職員も一職員として自覚と責任を持つよう指導している。

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>V-2 職員の技術の向上</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・園長会議などで得た他園の良いサービス事例を持ち帰って勉強会で検討し、実践に応用している。 ・他園研修に行く機会を多くしたり、意識的に担当クラス以外のクラスで保育をしたりすることで、職員一人一人が自己を振り返り、そのクラスの保育についても振り返ることができるようにしている。 ・設置法人の発達支援・臨床心理アドバイザーの巡回があるほか、西武地域療育センターからの巡回相談など外部から保育技術の評価、助言があり、これらを活用して技術の向上に取り組んでいる。 ・各クラスの指導計画の週案・月案に「振り返り反省する」欄があり、子どもの生活環境や生育歴を重視しながら、保育実践を振り返っている。 ・園の行事終了後、全職員で反省会を開き、園全体としての課題に取り組んでいる。
<p>V-3 職員のモチベーションの維持</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・「保育士人材育成ビジョン」という基準があり各人の経験や知識に応じた役割が明記されている。 ・園長は一定の権限を主任に委譲し、不在時や緊急時にはリーダーにも相応の権限を委譲してそれぞれの責任を明確にしている。 ・職員は業務改善提案や意見具申を自由な形式で園長に提案している。園長は提案し易いように、文書でなくても、口頭でも良いとしている。 ・園長は職員との面接を随時行うことにより、職員の満足度や要望を正しく把握できるようにしている。また、園長は私的に面接記録をつけ、職員のやりがいや満足度を高めるのに利用している。

評価領域VI 経営管理

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>VI-1 経営における社会的責任</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・組織や職員が守るべき法規・倫理などについては就業規則や保育業務マニュアルの中で明記され、職員に周知されている。 ・設置法人のホームページで経営状況や運営状況などに関する情報が公開されている。 ・他施設の不正や不適切事案については園長会や設置法人からの情報で勉強会を開き、全職員に周知している。 ・設置法人内にコンプライアンス委員会を設けており、委員名や電話番号が園の職員が目につくところに掲示している。 ・ゴミ減量化やリサイクルに取り組んでおり、裏紙の利用、エコキャップ集め、廃材利用の遊具制作、地域の子ども会による廃品回収への協力などを行っている。 ・省エネにも留意し、不使用保育室の消灯、扇風機とエアコン併用による節電、タウパー（紙手拭い）の節約などを徹底している。 ・緑化推進の面では、プランターにゴーヤ・へちまなどを植えてグリーンカーテン作りに取り組んでいる。 <p><コメント・提言></p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境問題を全員で取り組む為にも、環境への園の方針の明文化が期待されます。
<p>VI-2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・園長は人事異動や与薬問題、費用値上げなどの重要な意思決定・変更に際し、園だよりや運営委員会で保護者や職員に目的・理由・経過を十分に説明している。 ・エリアマネージャーや設置法人の企画部など、園を客観的に見られる異部門職員でチームを組み、事態に取り組む体制ができている。 ・主任を積極的に社内外の主任総合研修に参加させ、スーパーバイズできる主任の育成に努めている。 ・主任は全職員のシフトを調整する業務の中で、個々の職員の能力を把握し、必要な助言と指導を行っている。 ・主任は個々の職員が肉体的・精神的に健全な姿で業務に就けるよう配慮しているので、職員からの信頼度が高い。
<p>VI-3 効率的な運営</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞・専門誌などから収集・分析された事業運営に影響のある情報が設置法人より送達されると、園ではそれをもとに勉強会を開いている。 ・伝達された情報をもとにリーダー会議や職員会議で議論し、重点改善課題として園内に掲示し問題意識の高揚に資している。 ・重要な改善課題については保育園全体の取り組みとし、近隣園長会で話し合いの対象としている。 ・設置法人の本部と連携して外部の機関や専門家の意見を取り入れる努力をしている。 <p><コメント・提言></p> <ul style="list-style-type: none"> ・安定した施設運営を可能にするため、3～5年にわたる中長期計画の策定が望まれます。

利用者家族アンケート

施設名:アスク和田町保育園

ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部

結果の特徴

◇ 調査対象

調査時点での在園児数72名、全保護者63家族を対象とし、回答は33家族からあり、回収率は52%だった。

◇ 調査方法

評価機関で準備した「家族アンケート用紙」と返信用封筒を、保育園から保護者に直接渡し、約2週間後までに密封して匿名で保育園で用意した回収箱に入れてもらい、密封のままの状態の評価機関が回収した。

◇ 総合満足度

施設に対する総合評価は、肯定的な回答は97%(満足67%、どちらかといえば満足30%)と高い評価を得ており、(どちらかといえば不満)が3%であった。

◇ 比較的満足度の高い項目

- 1) 日常生活の「遊び」については、6項目全体の設問を合わせると(「満足」「どちらかといえば満足」)の回答が93%になっており、大部分の保護者の評価を得られている。
- 2) 「生活」については、7項目全体の設問を合わせると(「満足」「どちらかといえば満足」)の回答が、92%となっており、園における生活は高く評価されている。
- 3) 園と保護者との関係については、7項目全体の設問を合わせると、肯定的回答が95%となっている。とくに、「保護者との面談会の機会」「園の様子や行事に関する情報提示」については、100%の満足度を得ている。
- 4) 職員の対応については、5項目全体の設問合わせると、肯定的回答が95%と高い評価を得ている。

◇ 比較的満足度の低い項目

- 1) 安全対策などの設問で「外部からの不審者侵入防止」の設問に対し、「どちらかといえば不満」、「不満」の回答がそれぞれ21%、6%に達している。

調査結果

■園の基本理念や基本方針について

施設の基本理念や基本方針の認知	よく知っている	まあ知っている	どちらともいえない	あまり知らない	まったく知らない	無回答
	27%	45%	9%	12%	3%	3%

↓ 問1で「よく知っている」、「まあ知っている」と回答した方のうち

付問1

理念や方針への賛同	賛同できる	まあ賛同できる	どちらともいえない	あまり賛同できない	賛同できない	無回答
	80%	20%	0%	0%	0%	0%

■施設のサービス内容について

問2 入園した時の状況

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
見学の受け入れについては	70%	15%	3%		9%	3%
	その他:見学していない。					
入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	52%	39%	3%	3%		3%
	その他:見学していないので。					
園の目標や方針についての説明には	42%	52%	6%			
	その他:					
お子さんの様子や生育歴などを聞く対応には	61%	27%	9%			3%
	その他:					
保育園での1日の過ごし方についての説明には	42%	52%	3%		3%	
	その他:					
入園後に食い違いがなかったかなども含め、費用やきまりに関する説明については	48%	42%		9%		
	その他:					

問3 保育園に関する年間の計画について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
年間の保育や行事についての説明には	46%	50%		4%		
	その他:					
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	36%	45%	9%	6%	3%	
	その他:					

問4 日常の保育内容について

遊びについて

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
クラスの活動や遊びについては (お子さんが満足しているかなど)	73%	15%	12%	0%	0%	0%
	その他:					
子どもが戸外遊びを十分しているかについては	61%	27%	6%	6%	0%	0%
	その他:					
園のおもちゃや教材については (お子さんが自由に使えるように置いてあるか、年齢にふさわしいかなど)	67%	30%	0%	3%	0%	0%
	その他:					
自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	67%	30%	3%	0%	0%	0%
	その他:					
遊びを通じて友だちや保育者との関わりが十分もてているかについては	58%	33%	6%	3%	0%	0%
	その他:					
遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	52%	42%	6%	0%	0%	0%
	その他:					

生活について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
給食の献立内容については	70%	21%	3%	3%	3%	0%
	その他:					
お子さんが給食を楽しんでいるかについては	58%	36%	3%	0%	3%	0%
	その他:					
基本的な生活習慣(衣服の着脱、手洗いなど)の自立に向けての取り組みについては	64%	36%	0%	0%	0%	0%
	その他:					
昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	67%	30%	3%	0%	0%	0%
	その他:					
おむつはずしは、家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めているかについては	61%	12%	6%	0%	12%	9%
	その他: まだ、始めていない。おむつが外れてから入園した。					
お子さんの体調への気配りについては	67%	27%	6%	0%	0%	0%
	その他:					
保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	58%	36%	0%	3%	3%	0%
	その他: ケガにはあっていない。					

問5 保育園の快適さや安全対策について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
施設設備については	30%	52%	15%	3%	0%	0%
	その他:					
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気については	33%	58%	6%	0%	3%	0%
	その他:					
外部からの不審者侵入を防ぐ対策については	30%	39%	21%	6%	3%	0%
	その他:					
感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	45%	48%	6%	0%	0%	0%
	その他:					

問6 園と保護者との連携・交流について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	45%	55%	0%	0%	0%	0%
	その他:					
園だよりや掲示などによる、園の様子や行事に関する情報提供については	64%	36%	0%	0%	0%	0%
	その他:					
園の行事の開催日や時間帯への配慮については	55%	42%	0%	3%	0%	0%
	その他:					
送り迎えの際のお子さんの様子に関する情報交換については	45%	42%	12%	0%	0%	0%
	その他:					
お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	45%	52%	3%	0%	0%	0%
	その他:					
保護者からの相談事への対応には	52%	39%	3%	3%	3%	0%
	その他:					
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応には	73%	21%	3%	0%	3%	0%
	その他:					

問7 職員の対応について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
あなたのお子さんが大切にされているかについては	70%	24%	3%	3%	0%	0%
	その他:					
あなたのお子さんが保育園生活を楽しんでいるかについては	76%	18%	3%	0%	3%	0%
	その他:					
アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	58%	33%	0%	0%	6%	3%
	その他:自分の子どもはアレルギーでないのでわからない。					
話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては	67%	33%	0%	0%	0%	0%
	その他:					
意見や要望への対応については	55%	39%	3%	0%	3%	0%
	その他:まだ意見を言ったことがない。					

問8 保育園の総合的評価

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	無回答
総合満足度は	67%	30%	0%	3%	0%

観察方式による利用者本人調査

平成 24 年 8 月 23 日、29 日

施設名：アスク和田町保育園

ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部

◇0歳児

(水遊び)

水遊び用のおむつと T シャツ、帽子を身に付けて、1 歳児以上のプールとは別の少し離れたところのプールに入る。コップやジョーロ、アヒルの人形などを使って遊んでいる。一人用のたらいもあり、職員はぐずる子どもを移したりして、仲よく遊べるように援助している。

(給食)

子どもたちがテーブルに着いた後、一人の職員がペープサートを使ってお話や歌を歌うのを真剣に見ている間に、他の職員が子どもの手を拭きエプロンを付けていく。

中期食、後期食、完了食それぞれの子どもがいるため、配膳する職員は子どもについている職員に必ず「〇〇さん、後期食」と声を掛けながら渡している。ずっと泣いて職員に抱かれていた子どもが、食べ始めるとパクパク食べたり、食べさせても眠っていてなかなか食べない子どももいたり、スプーンで上手に食べる子どもがいたりなど、職員はそれぞれの子どもに合わせて目を配っている。

(午睡)

午前中、他の子どもがおもちゃで遊んでいる間、衝立の向こう側で眠っている子どもが 1 名いた。睡眠もそれぞれの子どもにペースに合わせている。

食事の後、パジャマに着替えさせてもらって、部屋を暗くしてみんな午睡をする。

(おやつ)

午睡後すっきりした顔をして、完了食の子どもはドーナツにかぶりついている。離乳食の子どもは黒糖で味を付けたお粥を、おいしそうに食べさせてもらっている。

◇1歳児

(プール)

たらいにお尻をしばらく浸けてから、いよいよプールに入る。大中小とプールがあるので、主に中と小のプールの好きな方で、缶やペットボトル、ボールを使って、水をかけ合って遊ぶ。

(排泄)

トイレの前の椅子に並んで、自分でズボンやおむつを脱いで、トイレに座る練習をしている。

(給食)

テーブルに着いた後、職員のお話と歌を聴いて、今日の献立、野菜の説明を静かに聞いている。

最初はフォークを使って食べていたが、そのうち手づかみになってしまうほど食欲をさんにしていた。食べながら途中で眠ってしまう子どももいたが、いつのまにか復活してまた最後まで食べていた。食べ終わると食器を重ねて片づけようとする子どももいる。

(午睡)

給食を食べ終わった子どもから、職員に歯を磨いてもらい、絵本コーナーに行ってそれぞれ好きな絵本を見始めて、午睡の準備を始める。次々と寝始めるが、なかなか眠れない子どもは、職員がそばについて身体をさすったりトントンしたりして寝かせている。

(室内遊び)

午睡後、小さめの柔らかいボールを部屋いっぱいにはらまいて、子どもが中に入れて天井の一部が空いている網の家に、ボールを投げ入れる遊びをする。子どもたちはキャッキョッと大きな声を上げて部屋中駆けまわって遊んでいた。

◇2歳児

(プール)

大中小のプールを行ったり来たりしながら遊んでいる。職員が水を上空に飛ばして落ちてくるのから逃げたり、子ども同士で水をかけ合ったり、大きいプールでは、ままごとをしているグループもある。大きいプールで転びそうになったら、職員がしっかり支えていた。

(給食)

今日のメニューには魚があるので、魚が出てくる絵本を職員が読み、今日のメニューと食材の話をする。給食の歌をみんなで歌ってから「いただきます」をする。おしゃべりしながら食べていると栄養士が入ってきて、座っておしゃべりに加わる。「おいしい?」「ごはんだけじゃなくて、おかずも食べようね」「野菜も食べられたね」などと声をかけている。食べ終わった子どもには、お替わりをよそっていた。

(着替え)

午睡の時間が終わって布団が片づけられても、眠くて床で眠っている子どももいたが、起きた子どもから順番にトイレに行き、パジャマから着替え始める。職員に見守られながら、一人で脱いで、服を着始める。上手に前後ろを確認しながら着ていた。ホックがきつくてなかなかできない子どもは、職員が手助けをしていた。布パンツになった子どもは、「パンツかわいいでしょ」と自慢していた。

(自由遊び)

おやつ後は自由遊びで、レールと電車で遊んでいる子どもグループと、テーブルでブロック遊びに興じている子どもグループがある。職員がブロックで頭にかぶるものを作ってあげたり、子どもが腕輪を作ったりしている。

◇3 歳児

(英語教室)

照り続く猛暑の毎日、子ども達は外へ散歩にも出られず、英語教室の外人講師の現われるのをいまや遅しと待っている。英語講師の“グッド・モーニング”の声で教室が始まる。講師は日本語を一切使わず、子ども達が話を理解しているか否かにかかわらず、すべて英語で子ども達に話しかけている。まさに、「目」からでなく「耳」から入る英語教育である。

子ども達は両膝を立てて床にすわり、講師の話す英語にじっと耳を傾けている。講師は大きな声で「数」の数え方、one、two、three…を発音して見せ、子ども達は同じ発音を繰り返して発声している。絵本を見ながら講師が“How many fruits?”と英語で尋ね、子ども達は果物の数を英語で元気に答えている。

講師は、3才児には難しいと思われる英語も使いながら授業を進めている。絵本の青虫が蝶になると“Wow, amazing!”と言ったりしている。その他“I’ m Sleepy、I’ m hungry、Good night、Wake up!”などの言葉がどんどん出てきて、子ども達の耳に入り込んでいく。また、答えずに黙っている子どもがいると“Every one”と言って発声をうながし、子ども達はつられて英語を口にしている。最後に、ABCの歌を全員で合唱すると、30分余りの英語教室はお開きとなった。

(昼食・午睡)

昼食の時間になると、職員が食卓テーブルを用意し布巾できれいにする間、子ども達は職員に促がされて、念入りな手洗いを始める。職員がお茶やご飯、みそ汁、おかずなど全員分を盛り付け、トレーにのせて配膳していく。全員で「手と手を合わせて、一緒に、いただきます。」との声で昼食が始まる。12人中1人の男児が箸を上手に使って、おいしそうにご飯を食べ始める。母親が作る料理のことや友達の話をしながら、楽しい食事が進む。食器を置いて食べている子どもには「茶碗を手を持って…」と職員が注意する。完食した子は誇らしげに茶碗を職員に見せている。スピードの遅い子どもが4人程いるが、職員は特に強要せず、4人を一つのテーブルに移して自己ペースでの食事をとらしている。

食事が終わると各自が食器を戻し、すべてのテーブルが片付けられると、職員が床の清掃して、午睡の準備に入る。子ども達は歯磨きやパジャマへの着替えへと進んでいく。職員が布団を敷き、絵本を読み始める頃になると、何人かの子ども達は横になり始め、やがてカーテンが引かれ、消灯となる。

◇4・5歳児

(プール遊び)

日照りが続く酷暑の毎日、外に出歩くことも出来ない子ども達にとって園庭に設けられた簡易プールは歓喜の郷である。朝9時半ごろには水着に着替えた子ども達がプールの水の中ではしゃいでいる。

プールは園庭の中央に4m×2m位の四角形で水深40cm位の大きいもの一基と、直径1.5m位で水深の浅い丸いプールが3基用意されている。天井は黒いネットで炎天下の光と熱気をさえぎっている。水は水道水を消毒し毎日取り替えている。子ども達は水かけ遊びや水中ジャンプ、バタバタ泳ぎなどをしながら、遊びと体力造りを行っている。年少児用プールでは玩具を浮かべて遊ぶ風景が見える。

身体の不調でプールに入れない子ども達は、室内で職員とゲームをしたり、本を読んだりして穏やかに時を過ごしている。

プール遊びが終わると、子ども達はプールサイドで、きれいな水のシャワーを浴び身体を良く洗った後、バスタオルで身体をふきながら、自分の部屋に帰っていく。まだ遊び足りないのか、子ども達はみんな楽しそうに部屋の中でグルグル廻りをはじめた。

ぬれた水着はビニールの袋に入れて家に持ち帰り、洗濯してもらってから、また持参している。

(絵本を読む)

プール遊びや英語教室が終わると昼食まで時間があるので、子ども達は一人一人本棚から好きな本を取り出し、読み始める。子ども達は絵本の中の色々なシーンに思いを致し、自らの物語を話し始める。別の子どもは職員に絵本の内容を話し始め、分らない草花の名前を職員に尋ねたりしている。

(食事)

壁に張られた当番表の5歳児2人が職員と協力して茶碗や皿を準備卓に並べていく。クリーム色のトレーはアレルギー除去食なので職員がすべて管理するが、普通食のピンク色トレーは当番の対象だ。ご飯やおかずなどの盛り付けも、当番と職員が協力して行っていく。

全員の「手を合わせ、一緒にいただきます」の声で食事が始まる。短く切ったスパゲッティが主食で、皆、上手に箸で食べている。好物を先に食べてしまうこともなく、いわゆる三角食べも、ある程度できているようだ。スパゲッティのお替わりに6~7人が列をなし、おかずの「とんかつ」には列の最後では品切れとなり、もらえなかったほど好評であった。

食べ終わった子どもから各自食器をかたづけ、トレーを戻し始める。決められた時刻になると、皆で「ご馳走様でした」と締めくくる。歯磨きする子ども、パジャマに着替える子どもと徐々に午睡の準備が進んで行く。

【受審の動機】

運営主体の理念として、「利用者に本当に求められるサービスを提供すること」を掲げており、利用者調査を元に保護者のニーズを把握しながら、日々の運営に反映させるべく評価受審に臨みました。開園当初より、同じ評価機関に評価を依頼することで比較がしやすく、運営方針等も十分にご理解いただいた上で調査を実施していただけたと考えました。開園 6 年目を迎え、これまで築いた土台に加え、園独自で取り組んでいることをいかにアピールできるかを課題として捉えました。また常に利用者のニーズに添い、選ばれ続ける施設でありたいと考えております。受審にあたり、職員一人一人が趣旨を理解し、取り組むことが出来ました。

【受審した結果】

この受審をきっかけとして、職員全員が自分自身の保育や園全体の運営についてじっくり見つめ直すことができ、自己評価の大切さを実感することができました。また、評価結果をもとに、保育の役割・機能といったものを再認識することができ、職員一同なお一層保育内容の改善・充実を図り、より求められる保育園を作っていこうという決意をいたしました。

今年度は特に、前年度指摘事項に意欲的に取り組み、達成率の向上が見られたことは大きな成果でした。また、日頃より利用者とのコミュニケーションを密にとり、信頼関係を築いていくことを大切にしている私たちにとって、職員の対応などをはじめとする利用者満足度が高いという結果は大変嬉しいものでした。

今後は更によりよい園を目指して、現在の園の課題を抽出し、中長期的な展望のもとに園運営の方向性を示し、その実現に向けて努力していきます。

最後に今回の第三者評価の受審に際し、ご尽力いただいた評価機関の皆様、そしてご多忙にも関わらず、利用者調査にご協力いただいた保護者の皆様に心より感謝申し上げます。